田原市図書館ふしぎ文学半島プロジェクト２０２４

“ふしぎ文学の達人”が選んだ　「摩訶不思議」オススメ本

選者：金原瑞人氏（翻訳家・大学教授）

１．『死体展覧会』ハサン・ブラーシム／著
藤井光／訳　白水社　2017

◆戦闘と殺戮とテロと暴力が錯綜する現代イラクを描いた 14 の短編が収められている。現代日本ではとても想像できない物語が、作者の奇矯な想像力を借りて、さらに想像を絶する物語に結実している。表題作は、人をいかに殺し、その死体をいかに芸術的に人の目にさらすかということに命をかける集団の話で、ブラックなうえにもブラック。その他、SF 風のもの、ナンセンス物、リアルな作品など様々だが、ナンセンス風の「軍の機関紙」が抜群に面白い。

2．『チベットのむかしばなし しかばねの物語』
星泉／編訳　のら書店　２０２３

◆インドから伝わった物語をチベット人がチベット風に語り直した昔話。ある少年が、遠くの墓地にいる「腰から下が黄金、腰から上はトルコ石で」できている幸いをもたらす「しかばね」を背負って帰ってくるという話だ。ただし、道中、決して口をきいてはならないという条件つき。しかばねは次々におもしろい話をして、少年はつい、質問を口にして、しかばねに逃げられる。そのしかばねの語った話 10 数編。不思議な話あり、滑稽な話もあり。

5．『愛書狂の本棚』エドワード・ブルック＝ヒッチング／著 髙作自子／訳
日経ナショナルジオグラフィック社 ２０２２

3．『カフカ断片集　海辺の貝殻のように うつろで、ひと足でふみつぶされそうだ』
カフカ／著　頭木弘樹／編訳
新潮社　２０２４

◆タイトル通り、カフカ作品の断片を集めたもの。「一方の崖に両足のつま先を、もう一方の崖に両手を突っこんで、もろい土壌にしっかりかじりついている」橋の話や、外の地面は乾いているのに家の中では雨が降っていて、「帽子をかぶっても、傘をさしても、頭の上に板をのせてみても（中略）帽子、傘、板の下で、同じ激しさの雨が新たに降りだしている」と訴える男の話などの掌編から、短歌か短い詩のようなものまで、どこを切ってもカフカ。

4．『イノチ ノ ウチガワ
Ｘ線写真で見る生き物の世界』
ヤン・パウル・スクッテン／文
アリー・ファン・ト・リート／写真
野坂悦子、薬袋洋子／訳 実業之日本社　2022

◆副題にある通り、アンコウやタツノオトシゴ、ワニやニシキヘビ、カケスやカモ、コウモリやモグラなどのＸ線写真集。淡い彩色が見事なうえに、写真に添えられた文章がまた素晴しい。それぞれの生物の骨的な特徴をうまくまとめてあるうえに、ユーモラスで詩的。セキレイにはたくさんの骨があって重そうに見えるが、どの骨も驚くほど軽く、くちばしも「髪と同じケラチン」からできていて、「とにかく夢のように軽いのだ！」。

◆荒俣宏いわく。読書家は本を読むが、愛書家は読まない。読むと本がいたむからだ。この本で紹介されているのは、とにかく珍しい本、変な本、不思議な本、歴史的に重要な本など。たとえば、自伝を縫いこんだ服、サダム・フセインが自分の血でコーランを模写した本、人の皮で装幀された本、異様に小さい本、巨大な本、暗号で書かれた本などなど。人の想像力を試す１冊。

選者：東雅夫氏
（アンソロジスト・文芸評論家）

## 1．『サラゴサ手稿』全３巻（上・中・下）
ヤン・ポトツキ／著　工藤幸雄／訳
東京創元社　２０２４

◆ヤン・ポトツキが語る伝説の幻想大河小説が、岩波版に続いて、なんと創元推理文庫でも全訳刊行されてしまった。これは、あの『薔薇の名前』や『百年の孤独』訳出・文庫化と並ぶ、世紀の大事件だ！　アラビアン・ナイトにも比される、幻妖怪奇な世界を、工藤幸雄氏の名訳で堪能すべし。

## 2．『ねこまがたけ』加門七海／著
五十嵐大介／絵　東雅夫／編
岩崎書店　２０２３

◆いつの年も猫たちは、全国各地にある「修行の山」に人知れず集まり、過酷な猫修行の日々に励むのだという……加門七海の奇想天外なお話に、五十嵐大介が愉快な挿絵を付けた、猫好き感涙の絵本。〈怪談えほん〉の岩崎書店が放つ、新たな〈猫えほん〉シリーズの第一弾である。

## 3．『病葉草紙』京極夏彦／著
文藝春秋　２０２４

◆「それ、心中の〈虫〉の仕業ですから！」……本草学者の先生が喝破する、人体に潜んでは、かずかずの病いを引き起こすという虫たちの、奇想天外な物語。その何とも摩訶不思議な姿とは？　江戸の貧乏長屋を舞台に起こる怪事件のかずかずに、長屋の差配を任されたボンクラ青年が、敢然と立ち向かう！

## 4．『禍』小田雅久仁／著　新潮社　２０２３

◆あの老舗・新潮社から、「怪奇小説集」とハッキリ銘打たれた短篇集が上梓された。ＳＦと幻想怪奇が交わる「あわい」の領域で、良質な作品を数多、産み出してきた作者が手がけた、新たな怪奇幻想の世界！　物語がどのように展開するのか、まったく予断を許さないユニーク極まりない構造に、烈しく魅了される。幻想と怪奇の新時代を牽引する、凄まじい才能の誕生である。

## 5．『我が見る魔もの』稲垣足穂／著
東雅夫／編　平凡社　２０２４

◆最後に、自分の編著から一冊。
今年の〈平凡社ライブラリー〉は、コメット・タルホの意外なお化け話集と相成った。さまざまな奇想天外な妖怪たちが、真夏の一カ月間、少年武士の家に来訪するが、少年は一歩もたじろがず、これを撃退、最後は大魔王の出現となる江戸の奇談「稲生物怪録」をベースにした連作をはじめ、愉快痛快奇々怪々な物語揃いだ！

リストのタイトル１０冊は、田原市図書館で所蔵しています。
2024.11作成